

分 かり と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

古代の東北地方に住んでいたのはどんな人？

(大学入試センター試験 2020年 日本史)



次の文章は「日本書紀」の659年の出来事とされる記述をまとめ直したものです。これを読んでわかることとして正しいものを、a～dの文から二つ選びなさい。

坂合部連石布(注)らを唐の国に遣わせた。そして、陸奥の蝦夷の男女2人を唐の皇帝にお見せした。皇帝は「蝦夷の住む土地には穀物はあるのか」と尋ねた。使の者は「ありません。肉を食べています」と答えた。皇帝は「蝦夷の住む土地には建物はあるのか」と尋ねた。使の者は「ありません。木の下で暮らしています」と答えた。

注) 人名。この時、派遣された遣唐使。

- a 遣唐使が、蝦夷を連れて唐に渡ったことが読み取れる。
- b 遣唐使が唐の皇帝に質問をする様子が読み取れる。
- c 蝦夷について、肉を食べ、木の下で暮らしていると説明されている。
- d 蝦夷について、穀物を食べ、建物で暮らしていると説明されている。

今回は、古代の東北地方について考えていきましょう。

遣唐使が蝦夷を連れて行った理由

600年代半ばより、現在の近畿地方に天皇を中心とする日本の中央政府が形作られてきましたが、近畿地方から遠く離れた東北地方は、まだ中央政府の力が及ばない「辺境」の地でした。「辺境」の東北地方に住む人々は、中央政府からは「蝦夷」と呼ばれてきました。中央政府は東北地方の太平洋側を陸奥国とし、蝦夷の人々を支配下に置くための政策を進めていきました。それに抵抗する蝦夷と中央政府との争いは、800年代まで続くこととなります。

今回の問題の文章は659年の出来事とされているものなので、中央政府が蝦夷を支配下に置こうとしている時期のものです。当時の日本は、当時中国大陸にあった唐という大国と良好な関係を築き、唐の文物を学ぶため、遣唐使と呼ばれる使者を唐に派遣していました。文章に出てくる坂合部連石布は、この時派遣された遣唐使のう



ちの1人です。文章を読むと、この時の遣唐使が東北地方の蝦夷を連れて唐の皇帝と会っていること、蝦夷について唐の皇帝が質問し遣唐使が回答していること、遣唐使は蝦夷が肉を食べ木の下で暮らしていると説明していることがわかります。つまり、問題の解答はa・cとなります。

飛行機もない時代に、日本から中国大陸に行くのは大変な船旅でした。この時の遣唐使はなぜ、わざわざ唐に蝦夷を連れて行ったのでしょうか。

当時の日本は、唐に倣った国づくりの真っ最中で、一人前の国であることを示すため、天皇の権威を高めようとしていました。唐の皇帝に蝦夷を会わせたのは、近畿から遠く離れた土地に住む蝦夷も天皇の支配下にあることを唐の皇帝に示し、日本の領土として主張するとともに、天皇の権威を高めることが目的にあったのではないかと考えられます。

蝦夷とはどのような人々だったのか

蝦夷とはいったいどのような人々だったのでしょうか。そのことについて、センター試験の問題文には以下のように記載されています(一部表現を書き換えています)。

日本の中央政府に抵抗を続けた蝦夷の実態については、不明なところが多い。蝦夷自身が残した史料が見つかっていないため、「日本書紀」をはじめとした史料から考えていくしかない。しかし、それは中央政府から見た蝦夷の姿であることに注意が必要である。

今回の問題の文章には、蝦夷は肉を食べ、木の下で暮らしていると説明されていますが、他の史料の内容や発掘調査などからわかっていることなどと照らし合わせると、この「日本書紀」の記述は事実と異なっていると考えられます。「日本書紀」は天皇を中心とする政府の正統性を示すことを目的に記された記録ですので、蝦夷を当時の中央政府よりも文化が遅れた民族であると大げさに表現することで、蝦夷を支配する中央政府の正統性を主張しようとしていた可能性があります。

引用したセンター試験の問題文にあるとおり、古代の蝦夷の実態についてはまだあまりわかっていません。蝦夷、またはその一部が、北海道や北東北を中心に暮らしているアイヌの人々につながっていったと考えられてはいるものの、古代の蝦夷がどのような人々で、どのような暮らしをしていたのかは、多くが謎のままなのです。

(Z会・河原井彩)

！ 今回の教訓

東北地方にはアイヌ語が由来とされる地名が残っています。古代の蝦夷についても、研究が進むと今後新たな発見があるかもしれませんね。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。